

特集

腹を割って話そう !!

ハイブリッド ER システム

ハイブリッド ER システム（以下、HERS）。血管造影装置と CT を一体化した IVR-CT を導入した初療室で救急診療を行うことにより、患者の移動なく初期治療から CT 検査、動脈塞栓術、さらにはダメージコントロール手術を可能とし、診断・治療という 2つのプロセスを 1カ所で行うことができる、まさに「ハイブリッド」なシステムです。わが国の導入施設から主に外傷診療における有効性が複数報告され、さらに最近では ECPR や血栓回収療法といった内因性疾患診療での有効性も認知されつつあります。ハード面でもソフト面でも最先端の、救急医療・外傷診療における華々しいトピックといえるでしょう。

しかしこの HERS は、単に IVR-CT を外来に設置すれば効果が出るというものではありません。HERS における外傷診療は JATECTM と異なるため、外傷診療そのものを変えてしまう可能性があります。医師だけでなく、看護師・診療放射線技師なども含めたチームとして新しい診療方法に習熟する必要がありますが、その指針や教育方法はまだ確立されていません。また、高価なシステムを数少ない重症患者が長時間占有することによるコスト面の問題もあります。このように HERS は、現在進行形でそのシステムの確立が模索されている途上にあるといえるでしょう。

だからこそ今、この HERS について“腹を割って”話してもらおう！

そのような思いから、本特集では HERS 導入施設の先生方を中心に、さまざまな切り口からその現状とメリット、期待と可能性、そしてデメリットや課題まで、“腹を割って”ご解説いただきました。「そもそも HERS ってなに？」「いずれ導入したい！」「本当に有効なの？」読者の皆さまがどのようなスタンスであっても、本特集が HERS について学び・考えるヒントになることは間違いありません。そして、本特集を読み終わった後に、仲間と HERS について“腹を割って”話してみたいかがででしょうか？ それがひいては、救急医学・医療の新たな可能性の模索につながることを期待しております。